



せめ圍こけきし新府への通路自在  
る寛永守胤重田周防守國と若に  
信蕃の命と文持人のたまひ出ま  
いそり多し出科山版森嶽とよら  
登り甲斐國八嶽とらして本多  
作左衛門重次大久保七市右衛門忠世  
書翰と達し  
東照宮に接名と乞ふまありか

野武士とてあに山路とて入り  
うとけぬよお破りし二澤小屋  
まの同十二年七月松平修理左衛  
康國の信いとも田舎唐も昌幸の統  
けり信濃國上田城と攻後右衛門左衛  
康貞の属し康貞の属没収せし  
後めし出され家恒卒十四人といけ  
らる寛永慶長六年信濃國上田陣の

時中後佐渡と正信より上り

台徳院殿に供奉し其後上野國

藤岡よりいそぎ米地を賜ひ家大坂

伊陣より依ひいゑてまつる實永元年

三月一日七十歳にして死す寛永法名を

玄溪よりいそぎ家其子甚右衛門守久を

上野より生る寛永

台徳院殿に依りていゑてまつる元永

九年駿河大納言忠長卿の附屬せられ

大番を勤む卿事方へ後處士と

なり寛永十六年閏十月のうへに

大猷院殿に依りていゑてまつり上野國

山多郡の内にいそぎ米地七十石廩

米六十俵といゑたまひ仰天守番に列し

正保二年七月廿二日死すと法名を玄三と

いそぎ其子甚右衛門幸勝といそぎ角三

よりの正保三年十月送跡を居りき後

湯天守番に居りし

家譜 子孫拜  
湯の列に居り

岩佐

右助藤原某按 藤原氏の子孫 清和源氏 伴良

時とき右みぎ子こ方かた 寛永 家傳 駿河しづな一いつ生なま方かた 寛永 時右

今川氏真いまがわ じまことの侍さむらい 後氏ごうじ田信のりのぶ玄及げんじくの

勝頼かつらゆの侍さむらい 刑さだ部べの侍さむらい 勝頼かつらゆの侍さむらい

辨わづら家いへ 某なにかも氏真うぢまことの侍さむらい 寛永 家譜 まる

勝頼かつらゆの侍さむらい 勝頼かつらゆ滅亡めつじやうの後のち湯ゆ方に

属まゐ 慶長けいぢやう三年さんねんの侍さむらい